



## 新年のごあいさつ

仙北市議会 議長

青柳宗五郎

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、統合庁舎の議論に明け暮れた一年でした。結果として、統合庁舎の建設は、実現できませんでした。統合庁舎の議論を通して、合併から10年を経過しても、未だに根深い地域感情が残っていることを実感しています。

3町村の合併は、地方自治法の本旨である効率的な行政運営のため、「人・モノ・金」を集約してこそ、住民のための政策財源が捻出できるということです。まさに「あれもこれも」から「あれかこれか」という政策の選択と集中が本市の将来を左右するからです。

統合庁舎の議論では「角館への一極集中だ」「ほかの地域が取り残されてしまう」という危機感や感情論が先行し、俯瞰的な「将来の負担を軽減するための議論」には程遠いものでした。

しかし、仙北市の議員ならば、時には感情論を越えた「未来の全市民」のための英断も必要です。そのためには、本市が抱える課題・現状を正しく認識する力量も問われているのです。

行政の主体は、あくまでも住民です。役所は、住民の下にいて、住民の幸せのために頑張る組織であるはずですが、市役所がどこにあるうとも、むしろ「役所側から住民側へ出向く」という従来意識の転換も大切なことなのではないでしょうか。

議会は、いかに将来の住民の負担を少なくできるのが、重要な視点のひとつとなります。

昨年の反省を踏まえて、本年は、信念を持って進みます。皆様にも、変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

併せて、本年のご多幸をご祈念申し上げます。

